

# 評価について

これからも考えていきたいこと

NOBURO HAGIWARA JAN 20, 2018 06:46PM

## 教育の原点

一人一人を見取ること、評価して次につなげること。教育の原点であると思いました。

『評価』を根本から考えて、自分の中で構築していきなければいけないと強く感じました。

どこかで自分が受けた教育も含めて「今まで」が邪魔している気がしています。

## 忙しいけど。。。。

一番大切なことは

regular descriptive feedbackではないかと思いました。

## 【よければ意見をください】フィードバックについて

毎時間、生徒に各時間の「まなんだこと、考えたこと」を書くように伝えています。フィードバックの仕方としては、コメントを書き加えたり、そのコメント欄に対応したループリックを使って、評価を返したりしています。しかしながら、疑問があります。このように、コメントを返すということは、考え方を方向づけてしまっていて、fixed mindsetへ近づけて言ってしまうのではないかと（つまり、先生が好みそうなことを書くことに繋がっているのではないかと）と思っています。みなさん、どのように思われますか？みなさんならどのように毎時間の振り返りに関してフィードバックをしますか？（勝田）

今回の講座で取り上げたDylan Wiliamは"Feedback should cause thinking,"と言っています。先生からのfeedbackで生徒たちがさらに考察を深めたり、作品に手を加えたりするきっかけになると良いと思います。そこでのfeedbackは良し悪し、出来不出来のような成果を基準としたものではなく、考え方、視点、意匠、努力、過程などを具体的に拾い上げたものである必要があると思います。毎時間の振り返りは大切ですが、形骸化してしまう危険性が高いのも事実だと思います。1週間に4回クラスがあるとしたら、曜日ごとにやり方や質問を換えると良いでしょう。具体的な方法を次回の講座で先生方と考えてみましょう。 - NOBURO HAGIWARA

難しいですね。複数の教師の目を見てコメントするというのもなかなか現実的ではないし。。。 - IKKOU TABUCHI

## 過程

個々によって学びの過程は違うこと。ひとりひとりの学びの過程を大切にすること。声かけの大切さ。

その学びを近くでみる。人を見る力をつけて行きたい。

本質的に「理解」とは何か。

ふだん、生徒がわかっているか、理解しているか、と考えていても、何をもって理解していると判断しているのかわからなくなった。

テストでは知識の評価にしかならないし...

## 学び方を学んだり、学ぶことの楽しさを学んだりすることで、児童生徒は良い意味で勝手にどんどん学習が広がっていくのだと思います。

今まで、ジグソー法は全員の知識・技術の担保ができないような気がしてずっと敬遠していました。

学習の個別化を考えると各生徒にあったものを提供できると考えて、良い方法に思います。

The Jigsaw Methodは1971年のTexasで人種間の不協和音が最悪の状態だった時に、人種の枠を越えて生徒たちが助け合い、話し合い、教え合う学習環境を作るために地元の先生方が考案した方法です。一人ひとりの深い学習と成果を明確にねらう学習方法です。一斉授業では絶対に到達することのできない自己達成感と成就感を生徒たちに体験させることができます。 <https://www.youtube.com/watch?v=euhtXUgBEts>

- NOBURO HAGIWARA

## 評価を学習者の「次（の学び）」につなげる

適切な意義のある評価が学習者の「次」につながり、教師はそうなるように授業をデザインし評価しなければならないと思いました。

## 教師の独りよがりではない、しっかりとした評価ができたときに、次へのよりよい戦略が生まれるのである。

学習者自身が、色々あったけれど自分でやりきった、と実感できるようなプロセスのある学び。

## mindset

教師である自分自身がgrowth mindsetを持ってられるように。

教師である自分自身が生徒たちにgrowth mindsetの意識を持てるような毎日の関わりができるように。

教師である自分自身が、生徒たちがfixed mindsetを持ってしまふ原因にならぬように。

## 過程を大事に

学び方を学ぶことの重要性

生徒のモチベーションを高めるよに、常にフィードバックしていけるよう心がけていきたい。

学習者自身がきちんとハンドリングできているのいう実感のもてる学び

日々の忙しさ・ToDoに追われて仕事をこなすのではなく、生徒のプロセスを評価できるように、生徒と向き合う時間を確保し続けていくこと。

## 温かい関係をつくるために

大村はま先生が言っている、「師と生徒との関係を親しい温かいものにします」という一節が印象的でした。このような親しい温かいものにするために、教員が常に「見ている」というメッセージを発し続けることが必要だと思いますし、そのメッセージの一つが形成的評価であると考えています。

優劣のかなたに 大村はま 優か劣か そんなことが話題になる、そんなすきまのない つきつめた姿。 持てるものを持たせられたものを出し切り 生かし切っている そんな姿こそ。 優か劣か、自分はいわゆるできる子なのか いわゆるできない子なのか、そんなことを教師も子どもも しばし忘れて、 学びひたり 教えひたっている、そんな世界を見つめてきた。 学びひたり 教えひたる それは優劣のかなた。 ほんとうに持っているもの 授かっているものを出し切って、 打ち込んで学ぶ。 優劣を論じあい 気にしあう世界ではない、 優劣を忘れて ひたすらな心で ひたすらに励む。 今はできないを気にしすぎて、 持っているものが 出し切れていないのではないか 授かっているものが 生かし切れていないのではないか。 成績をつけなければ、 合格者をきめなければ、 それはそうだとしても、 それだけの世界。 教師も子どもも 優劣のなかで あえいでいる。 学びひたり 教えひたろう 優劣のかなたで。 -NOBURO HAGIWARA

## Growth mindset

『Growth mindset』に向かっていけるように、まずは自分が何ができるかを考えたい。

大村はま先生「優劣の彼方に」という詩の最後の部分→「成績をつけなければ、合格者をきめなければ、それはそうなのだ。今の日本では教師も子どもも力のかぎりやっていないのだやらせていないのだ。優劣のなかであえいでいる。学びひたり教えひたろう優劣のかなたで。」

「人はお互いにだれかを育てながら生きているものですし、なにより自分を育てながら生きているものです。」という大村はまさんの言葉が心に深くしみ込んでいます。

- NOBURO HAGIWARA

プロセスを評価すること。生徒のプロセスをしっかりと見てあげること。そして、生徒にプロセスが大切だということを、教師の姿勢で伝えること。

## 毎回毎回の授業

で、数値的な評価以外の評価ができていない自分を反省した。アクティビティーを課すときは、相応の評価を考えて実践しているが、いつもそういう授業になるように、生徒全員が過程を評価してもらえていると感じられるような授業になるように、努力していきたい。とても勉強になりました。

特別支援教育で行われていることは、特別な支援ではなく、あたりまえの支援なのです。

## 学習の個別化

数学の授業をする中で、「他者の考えを尊重する」などの「非認知能力」を育むことを意識して考えています。では「認知能力」を蔑ろにするのかというとそうはいかない。どちらの能力も育むために、個別化“individualization”する仕掛けとそのフィードバックを常に行いたいと、今回の会を通じて考えました。

## 過程を評価する

ふだんの授業の中で、過程を評価するということができていると感じます。生徒との日常の信頼関係がないと、「がんばったね」という声かけも上滑りしてしまいそう。

個別化、全然できていないなあ、と子どもたちに申し訳なくなりました。それぞれの過程に我々がもっと視線を注げたら、きっと子どもたちの可能性は広がるんですよね。出来ることからやっていくぞ!と前向きになりつつも、出来ることの狭さにモヤモヤする日々です(><) - 山田美奈都

- ・ One Learning target.
- ・ 過程をきっちりと保存し、共有する。

===

Googleのサービスは「共有」「協働」が強みだと感じていたが、ここに「過程の保存と更新」が追加されるとより強力なツールとして学びを促進できるのではないかと感じた。

## Teach Student

Self-assess and set goals.

Focused revision

===

- ・ 明確なvision、Learning target.
- ・ 良い例、悪い例をはっきり見せる
- ・ 本当に丁寧な、細かいfeedback

**形成的評価によって得られたものは、生徒のためでもあるが、教師自身のためでもある。**

\*\*\*\*\*